第４回　佐賀市立図書館大規模改修基本構想・基本計画策定委員会　開催結果

日　時：令和６年２月１日（木）　１５：００～
場　所：佐賀市立図書館大集会室
参加者：策定委員会委員、青木茂建築工房、佐賀市　図書館ほか関係職員

１．策定業務の進捗について

策定業務にかかるこれまでの実施事項の確認と、第３回委員会（令和５年１１月７日）以降の市組織内における協議状況に関する説明を行った。

〇第１回～第３回策定委員会の開催状況について
〇市民等の意見聴取の状況について
〇この３ヶ月間の佐賀市組織内における協議の状況について
・メインコンセプト「ＳＡＧＡ　ＬＩＢＲＡＲＹ　ＰＡＲＫ」を解析し、
サブタイトル「本を好きにさせてくれる体験にあふれた図書館」を設定したこと
・新たな利用者獲得に向けたイベント開催等、民間活用に関する先進事例視察調査を行ったこと

【委員の主な意見】

サブタイトルの「本を好きにさせてくれる体験にあふれた図書館」という表現について複数意見あり。

・「本を好きにさせてくれる」という言い方は押しつけ感を感じる。「なぜか本が好きになっちゃう」はいかがか。
・「させてくれる」というのは、利用者からすれば受動的な表現だが、それは“特に本が好きでなくても、図書館に行ったら何か本を好きになるきっかけが見つかった。”という偶然の出会いをうまく表現している。
・このようなきっかけを何度か体験するうちに、自然と「そうだ、図書館に行こう！」となり、リピーターになっていくだろう。
・「そうだ、図書館に行こう！」は今後のキャッチコピーとしても良さそうだ。
・解釈に幅が出ておもしろい。
・このように議論できるということは、「させてくれる」は人の印象に残りやすくて良いと思う。

⇒　サブタイトルについての合意が得られた。

２．　基本構想・基本計画素案の説明

基本構想・基本計画素案について、内容の説明を行った。

【委員の主な意見】

・蔵書数を維持しながら、新たにゆとりあるスペースを確保できるのか？

⇒　第３回委員会でも説明したが、開架点数を減らして閉架書庫（集密書架）に移動させることで、閲覧室の書架の占有面積を減らして新たなスペースを確保できるようになる。

・閉架が増えると司書の役割が重要になってくる。選書や展示だけでなく、資料を探す利用者を閉架書庫にしっかり導けるような司書のサポートが必要である。

・「体験」について、具体的な計画はあるのか。

⇒　体験の想定として、３ページ「本を好きになるきっかけを」に“アウトドアやスポーツとの連携”、“本業界との連携”、“映画や音楽など他ジャンルとのコラボ”などを示してはいるが、民間活用の部分でもあることから具体的な内容は今後の検討事項となってくる。

・「体験」の延長上に本があることをもう少し強調して欲しい。

・市民の様々な活動（主に文化活動）を気軽に発表できる場を提供することは考えられないか？

⇒　将に図書館がやるべきことと考えており、佐賀市民の文化活動の発展に寄与したい。

・どん３の森の広場で開催されているイベントと一体感のある催事はできないか？

⇒　イベントを含めた公園の魅力（ポテンシャル）を図書館に引き込みたいと考えている。まずは、どん３広場とのアクセス面を改善したい。

・貸館やイベント開催時の利用ルールについては、きちんとした基準の設定は必要ではあるが、利用者側の意見を設計時点から反映させて、利用しやすい仕組みにして欲しい。

・魅力あるイベントを継続開催していくためには、全体的なマネジメント機能が大事である。それを民間と協業する形で行うのであれば、しっかりしたルールを作る必要がある。

・工事中は閉館するのか？開館したまま工事できないか？

⇒　本館を開館したままの工事は、費用や工期が増大し、また安全面でも好ましくない。本館の休館中も分館・分室は開館する。また、自動車図書館によるサービスの強化を図っていきたい。

⇒今回出された意見・要望を反映した修正を行い、次回の委員会で素案を確定したい旨の合意がなされた。